

令和4年度 長崎南高等学校 学校評価 総括評価表

○ 教育方針	(1) 変化に対応できる知性と実践力を養い、積極・創造の気概を振起する。 (2) 真理と正義を求め、一意学道に精進する態度を養う。 (3) 学習と部活動の両立に挑み続けることで、明るく、たくましい心身を培う。 (4) 公正な判断力を育て、自主・自律の生活態度を確立する。 (5) 豊かな情操と強い連帯感を養い、社会に貢献する態度を育てる。	《評価の基準》 4：十分達成できている (目標の8割以上が達成できている) 3：おおむね達成できている (目標の6割以上が達成できている) 2：どちらかという達成できていない (目標の3割以上が達成できている) 1：ほとんど達成できていない (目標の1割以下しか達成できていない) 評価…上段R4年度、中段R3年度、下段R2年度 *1(2)学年経営、2(2)①教科・進路指導はR4年度のみ
○ 努力目標	(1) 進路(進学)希望実現力の育成 (2) 自己管理能力及び課題解決能力の育成 (3) 品性ある言動力の育成 (4) 人間関係・社会形成(社会貢献)能力の育成 (5) 教育環境及び広報活動の充実	
○ 今年度の重点課題	(1) 進路指導 (2) 教科指導 (3) スーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業 (4) 部活動 (5) 生徒指導、生徒会指導 (6) 生徒支援 (7) 読書活動 (8) 事務・広報等 (9) 南高の新たな時代に向けた教育活動	

評価項目	具体項目	目 標	具 体 的 方 策	評 価	成果と課題
1 学校運営 全職員が共通の理念に立った学校運営を行うことによる教育成果の評価					
(1)重点課題	重点課題の設定とその具現化	本校の実態に即した年度の重点課題を設定し、職員・生徒・保護者の理解に基づく教育活動を展開する。	①今日の教育課題と生徒の実態を踏まえた重点課題を設定する。 ②重点課題の具現化方策を校務分掌及び学年経営方針に盛り込み実践する。 ③生徒・保護者・地域等に教育方針や重点課題等を説明し理解を得る機会を設定する。	3.1 3.4 3.5 3.1 3.4 3.4 2.9 3.1 3.2	すべての評価項目で0.2～0.3ポイント減少している。各方面への説明の機会(時間)は昨年度よりも増加している。今後は、これまで以上に職員間のコンセンサスを十分に図っていきたいと考えている。
(2)学年経営	学年目標の具現化	1学年 「向き合う」を学年スローガンに ①豊かな感性を育む指導の充実 ②自律した生活習慣を確立させる ③進路指導を充実させる 2学年 「心に緑を ひとに思いやりを」をスローガンに ①豊かな感性を育む指導を充実させる。 ②自律した生活習慣を確立させる。 ③進路指導を充実させる。 3学年 「自己実現」を学年スローガンとして、 ①豊かな感性を育む指導の充実 ②自己実現に向けて最後まで諦めない進路指導の充実 ③生徒指導及び生徒支援の充実を目指す	①豊かな感性を育む指導の充実 授業・部活動・学校行事・学級活動を通して人間性の陶冶を図る。 ②自律した生活習慣を確立させる 面談の充実を図りながら、保護者との連携を密にし、生徒が基本的な生活習慣を確立できるよう支援する。 ③進路指導を充実させる 平日2時間以上の家庭学習を徹底させるとともに、SSHや進路学習を通して、将来の進路選択に対する視野を広げさせる。 ①授業や部活動・学校行事、挨拶・掃除、体験活動を通して、豊かな情操と思いやりの心を育てる。 ②面談の充実を図り、健康的な生活に努めさせ、安易な遅刻・欠席を防止する。また、規律を守り、集団生活におけるマナーを身につけさせ、社会性を育成する。 ③家庭学習時間を定着させ、主体的な学習態度を育む。また、SSHや進路学習を通して、将来の進路選択に対し明確な目標を持たせる。 ①部活動・学校行事・学習・掃除・挨拶による人間力の陶冶 ②生徒自らが進路希望を主体的に開拓できる進路指導 ③規範意識を高める指導による社会性の育成	3.0 3.1 2.9 3.6 3.3 3.2 3.3 3.3 3.2	全体的には落ち着いた学校生活を送っている。家庭学習が習慣化していない生徒が多い。今後は様々な体験・交流活動や進路学習をもとに、将来の目標を明確にさせ、その実現に向けて努力を積み重ねていきたい。コロナ禍において、体調面や人間関係などに悩む生徒も多く見られたが、学年内で情報を共有しながら、担任を中心にこまめに面談・声かけ等を行い、基本的な生活習慣の定着に努めた。 ①修学旅行を実施することができた。学年として大きな成果を上げることができた。 ②規律を守り、落ち着いた生活を送ることができている。今後は時間の管理を徹底させる指導を継続的に行っていく。 ③家庭学習の定着をはじめ、主体的な学習態度を育む指導を必要とする。 「コロナ」という制限の中ですべての生徒が揃わない中、指導が徹底できなかった部分も多かったが、生徒たちの頑張りや随所に見られた。進路決定まであとひと踏ん張りしていきたい。

2 教育活動		教育全般における計画的・組織的な教育成果の評価			
(1)教育課程の編成	創意工夫を生かした教育課程の編成と実施	本校の実態に即した教育課程の編成に努める。	新学習指導要領の趣旨を踏まえ、学力向上と進路希望の実現に対応できる教育課程を編成する。	3.1 3.3 3.2	新教育課程において、生徒の状況やSSHなどに即した教育課程について検討を続けていきたい。
(2)学習・進路指導の編成					
①教科・進路指導		国語科 学習指導の充実と国語力の向上に努める。	①授業担当者間の連携を密にし、授業の質を高める工夫を行う。 ②計画的に課題を与え、迅速に処理し、確実に仕上げるまで指導する。 ③学力向上に向けて数値目標を掲げ実現に向けて組織的に取り組む。	4.0 3.7 4.0	授業担当者間の連携を密に取ることができた。今後も連携して学力向上の方策に取り組んでいきたい。
		地歴・公民科 個々の生徒に対応した学習指導の充実と学力向上に努める。	①教科担当者間の連携を密にし、授業の質を高めるように工夫する。	3.3	
			②計画的に生徒の能力に応じた適切な課題を提供し、確実に仕上げるまで指導する。	3.0	
			③主要な模擬試験等に数値目標を掲げ、目標達成にむけて教科をあげて取り組む。	3.0	・観点別など新評価体制について、教師（科目）間の連携を密にして対応することができた。 ・ICTを利用し、授業の質を高める工夫ができた。 ・模擬試験等における数値目標について、学校目標の「自走する生徒」を育てつつ達成するにはどうすべきか検討が必要。 ・生徒情報や入試情報など情報共有できるものを教科内でも増やしていきたい。 ・各学年や進路等の情報が全職員に共有できていない。特に補習のコマ数については、年度当初に確認し進捗確保に努める。
		数学科 学習指導の充実と数学の学力向上に努める。	①教科担当者間の連携を密にし、授業の質を高める工夫を行う。	3.5	・担当者間の連携を密に取りながら授業や課題を通して定着に努めた。 ・各種講座で単元を絞った演習ができた。 ・模試を見据えた指導を行ったが、目標の実現には至らなかった。
			②計画的に課題を与え、迅速に処理し、個に応じた適切な指導を行う	3.0	
			③主要な模試について数値目標を掲げ実現に向けて組織的に取り組む。	3.2	
		理科 学習指導の充実と生徒の科学的思考力の育成に努める。	①教科担当者間の連携を密にし、ICT活用を推進しつつ授業の質を高める工夫を行う。	3.0	（理科） 総合環境科学の観点別評価の方法等については今後検討を要する。合わせて理科の科目における観点別評価の手法についても共有する取り組みが必要。
			②主要な模試等について数値目標を掲げ、実現に向け組織的に取り組む。	3.0	
			③課題研究や総合環境科学の指導を通し、生徒の科学的見地を高める。	3.0	
		英語科 学習指導の充実に努め、実践的コミュニケーション能力の育成を図る。	①教科担当者間の連携を密にし、ICTを活用するなど、授業の質を高める工夫を行う。	3.3	・タブレットPCの活用については、教員間で差がある。 ・Teamsによるボキャブラリー・ビルディングが成果を上げつつある。 ・3年間を見通した統一の課題が作成できていない。 ・生徒への提示はできているが、定着が不十分であり、今後の課題である。 ・対外テストと日頃の授業内容が釣り合っていない。 ・ゴール設定に「スピーキング」が少ない。
			②計画的かつ継続的に課題を与え、迅速に処理し、確実に仕上げるまで指導する。	3.0	
			③主要な対外テストについて数値目標を掲げ、その達成に向けて授業担当者間の協働により取り組む。	2.7	
			④各科目の授業において、4技能のバランスの取れた実践的コミュニケーション能力を育成する。	2.6	
		保健体育科 学習指導の充実によってバランスのとれた体力づくりを目指す。	①教科担当者間の連携を密にし、授業の質や緊張感を高める工夫を行う。	4.0	体育館の改修工事のため、実施種目に制限があったが生徒の理解もあり、対応できた。
			②主運動前に補強運動・7分間走を実施し、体力の向上を図る。	4.0	
			③受験（体育系）指導の充実。	3.0	
		芸術科 学習指導の充実と感性豊かな人間性の育成に努める。	①授業に積極的に取り組ませ専門的に一定程度以上の能力を持たせる。	3.2	コロナ禍においても、カリキュラムを大きく変更することなく、進める事ができた。
			②決められた期間内に課題（歌唱または器楽の実技試験・鑑賞の記録・作品の完成）ができるようにする。	3.6	

			家庭科 学習指導の充実と実生活への活用 に努める。	①地域に根ざした実践的・体験的学習を取り入れることにより、家庭・家族と社会との関わりを理解させ、授業の質を高める。	2.0	乳幼児ふれあい体感が今年度も実施できなかった。コロナ禍に合った調理実習、課題の提出方法の変更、学校家庭クラブ活動や災害教育を新しく組み立てなおした。
				②実生活に即した教材を使い生活に必要な知識と技術を習得させる。	3.0	
				③実習を伴う学習では、事前に目標を設定させ、目的意識を持たせる。実習後、レポートを書かせ、次の実習に生かせるようにする。	3.0	
				④実技試験を多く取り入れ、技術習得の意欲を高める。	3.0	
				⑤長期休業中に生活に関する課題を出し、各自の家庭生活や社会生活に関心を持たせる。	3.0	
			情報科	①		本年度未実施
②特別活動	生徒活動の充実	生徒の自主的・自発的な活動の 支援に努める	生徒の自主的・自発的な活動の 支援に努める	生徒会活動や、文化祭・体育祭など諸行事で、生徒が自主的に活動し、リーダーとなる人材を育成する。	3.1 3.5 3.3	生徒会長を中心によく頑張ってくれていたが、生徒間の温度差も大きく、教員の働きかけと生徒の自発的な活動のバランスがうまくとれなかった。
(3)SSH事業の推進	SSH事業の円滑な 発進と事業内容の 充実	①SSH事業の円滑な運営	①計画的な運営を行い、SSH事業を円滑に進める。	①計画的な運営を行い、SSH事業を円滑に進める。	3.2 3.4 3.5	実施の総括は、開発実施報告書にて2月に報告予定。次期の新規取組については職員研修や担当者打合せで目的・目標等共通の理解を図るよう努めたい。
					3.1 3.4 3.5	
					3.1 3.4 3.5	
(4)生徒指導	品位ある南高生の 育成と安全な教育 環境の充実	①元気のよいあいさつとその場 にふさわしい言動ができる ②整理整頓ができる ③身なりが整っている ④時間を守ることができる ⑤思いやりの心とたくましい心 を身につけている	①・登校時の挨拶指導の実施 ・学校生活における基本マナーの 周知徹底（掲示） ②・職員監督の下、掃除の徹底 ・机・ロッカーの整頓 ・貴重品の管理 ③・違反についてはその場で指導 ・容儀検査の実施と事後指導徹底 ④・授業開始2分前着席と集会時の5分前 集合 ・下校時刻の遵守徹底 ⑤・バスマナー指導 ・生徒理解に努め、自己有用感を高め る指導を心がけ、人と関わる力の土 台をつくる（生徒指導研修会の実施 等） ・携帯端末使用ルールの遵守徹底 (全般) ・毎月生徒指導便りを発行し、保護者と 情報の共有化を図る ・生徒会、生徒支援部との連携	①・登校時の挨拶指導の実施 ・学校生活における基本マナーの 周知徹底（掲示） ②・職員監督の下、掃除の徹底 ・机・ロッカーの整頓 ・貴重品の管理 ③・違反についてはその場で指導 ・容儀検査の実施と事後指導徹底 ④・授業開始2分前着席と集会時の5分前 集合 ・下校時刻の遵守徹底 ⑤・バスマナー指導 ・生徒理解に努め、自己有用感を高め る指導を心がけ、人と関わる力の土 台をつくる（生徒指導研修会の実施 等） ・携帯端末使用ルールの遵守徹底 (全般) ・毎月生徒指導便りを発行し、保護者と 情報の共有化を図る ・生徒会、生徒支援部との連携	3.1 3.2 3.3 2.7 2.9 3.1 2.8 3.1 3.1 2.6 2.8 2.9 2.8 3.0 3.1 3.2 3.3 3.4	・コロナ禍の影響も考えられる が登校時間の遵守徹底が不十分 であった。 ・掃除については、主体的な取 組が今後の課題である。全職員 による、より有効な指導体制に ついて検討したい。 ・机・ロッカーの整理の呼びかけ をもっと指導部で行っていくこ とが必要。 ・授業開始2分前着席は一時期 よりはよくなってきた。 ・バス利用者の集会を開くなど して、バスマナーの定着を図り たい。 ・生徒指導便りを活用して大事 な情報を生徒と保護者に伝える 必要性を感じた。
(5)健康・安全指導	健康や安全に対す る意識や態度の育 成	本校の教育方針や重点項目にそ って、健康・安全指導の充実に 努める。	①自律的な生活習慣を確立させ、健康保 持・増進を図らせる。 ②教育活動時の安全保持に努める。また 安全意識の涵養を図り、生命尊重の精神 を高める。	①自律的な生活習慣を確立させ、健康保 持・増進を図らせる。 ②教育活動時の安全保持に努める。また 安全意識の涵養を図り、生命尊重の精神 を高める。	2.8 3.2 3.0 3.1 3.4 3.3	コロナの影響もあり、保健室 利用者が多く、欠席・遅刻・早 退も多い。家時間が増え、スマ ホ依存にも繋がっている。
(6)心の教育	他者を思いやる心 や命を大切にする 態度の育成	教育活動全体の中で心の教育の 充実に努める。	①支援部及び学年団や担任、保健室間の 連携をさらに密にする。 ②スクールカウンセラーや外部機関等を 積極的に活用し、予防に重点を置いた教 育相談体制の充実を図る。	①支援部及び学年団や担任、保健室間の 連携をさらに密にする。 ②スクールカウンセラーや外部機関等を 積極的に活用し、予防に重点を置いた教 育相談体制の充実を図る。	3.4 3.8 3.6 3.5 3.7 3.5	毎回のSC情報・助言を管理職 ・学年主任・担任と共有し支援 の方向を決め、関係機関との連 携も図ってきた。内容は多岐・ 多様。
(7)部活動	部活動の活性化	1年次の全員部活制を生かし、 個々の生徒の活動の継続に努め る。	部活動の練習環境を充実させるとと もに、練習時間と学校下校時間を遵守さ せ、「学習と部活動を両立」させる。	部活動の練習環境を充実させるとと もに、練習時間と学校下校時間を遵守さ せ、「学習と部活動を両立」させる。	2.9 3.0 3.1	練習時間の遵守と下校時間の 遵守をこれからも呼びかけてい きたい。

3 教育環境		学校の置かれている教育環境に関わる教育成果の評価			
(1)施設・設備の管理	施設・設備の適切な管理に努め、維持補修、改修工事を計画的に実施する。	施設・設備の維持・補修と安全確保に努める。	①継続的な安全点検を実施し、危険防止に努める。 ②施設の維持補修及び改修工事を計画的に実施する。	3.3 3.3 3.4 3.3 3.4 3.4	体育館の改修工事は円滑に進めることができています。厳しい予算の中ではあるが、引き続き安全・安心な施設の維持に努めていきたい。施設・設備の不具合については、すぐに知らせていただいているので助かっている。引き続き迅速な対応に努めたい。
(2)情報化推進 *情報担当職員	教育活動のＩＴ化	ＩＴ関連の施設・設備の充実と教育活動分野への活用促進に努める。	①・情報機器等の充実した整備を行う。 ・校内LANの生徒への活用を推進する。 ②校務処理の効率化と職員のICT活用能力の向上に努める。	3.2 3.5 3.1 3.2 3.2 3.2	昨年度と異なり、ICT環境に大きな変化が無かったためか、評価が下がっている。引き続きICTを活用できる環境の整備に努めていきたい。
4 開かれた学校		関連機関や団体との連携における教育成果の評価			
(1)保護者との連携	P T A活動の充実	P T A総会の盛会とP T A活動の活性化に努め、学校と家庭間の連絡を密にする。	①家庭と学校との緊密な連携を保つための情報発信をこまめに行う。 ②P T A総会の内容の工夫を行うなどで、出席率を向上させる。	3.1 3.3 3.3 2.9 3.1 3.2	コロナの状況もあり、保護者に来校していただく形式での活動はできなかった。 PTA総会を家庭でも視聴できるようにYouTubeでの配信を行ったが、通信に不具合が出る等、課題が見られた。
(2)地域や関係機関との連携	外部講師等の活用	外部講師の招聘による教育活動	同窓会や民間機関等の人材を有効に活用して、教育効果を高める。	2.9 3.3 3.2	未来デザインスクールや進路講演会などで外部講師に来ていただいた。今年度は様々な事情で崎陽塾が実施できなかった。
5 生徒の教育成果		校訓の具現化（知育・徳育・体育の調和のとれた教育活動全般の評価）			
(1)豊かな人間性	・理想は高く、気魄と情熱に燃える生徒の育成 ・親和と友愛に充ち礼節を重んじる生徒の育成	学校への帰属意識を養うと共に、他者を思いやる心や奉仕する心を育てる。	①クラスや生徒会活動で、学校行事やボランティア活動に、積極的に取り組ませる。 ②生徒会専門委員会や執行部の活動として、あいさつ運動やバスマナー指導を行い、品性のある生徒を育成する。	2.8 3.4 3.1 3.0 3.4 3.2	生徒は真面目に取り組んでいるが、学習や部活動、SSHとのバランスを取りながら生徒会活動を大なうことの難しさを感じた。
(2)学力の向上	・真理と正義を求め一意学道に精進する態度を養う。 ・すぐれた知性と実践力を養い、積極・創造の気魄を振起する。	・入学後の導入をスムーズにし、基礎学力の向上を図る。 ・学習意欲を高める授業法を探索し、授業の質の向上を目指す。	①導入期の指導を計画的に実践し、高校生活へのスムーズな移行を実現し、基礎学力の向上を図る。 ②公開授業や研究授業を実施して教員の指導力向上を図る。 ③進路実現100%を目指す。	2.9 3.1 3.1 3.2 3.5 3.4 3.2 3.4 3.5	授業改善を進めながら、学習規律の確立に努めたい。 授業を見て学び合う雰囲気や仕組みをさらに醸成していく必要がある。 理系の生徒の文系への転向が、この数年多く、手を打ちたい。
(3)健康や体力	健康で明朗、品位ある生徒の育成	起立ある行動を目指すことで、人間力の成長だけでなく、けがの防止も図る。	①部活動を奨励し、生徒が部活動に参加することを通して、明るく、たくましい心身を培う。 ②行動体力を高めるとともに、防衛体力をつけ、病気やケガに強い身体作りを行う。	3.1 3.6 3.2 3.0 3.2 3.1	部活動を通じ、生活面の改善を含めて目標達成に向け取り組んでいきたい。

ほとんどの評価項目で前年度を下回っている状況である。近年、職員の考え方が多様化してきており、全体のコンセンサスを図ることの重要性和難易度が以前にも増して高くなってきているように思われる。また、変化の激しい社会の中で急速に変化していく教育環境に、対応が追いついていない状況も垣間見える。研修機会を確保する等して対応を急ぐ必要を感じているが、研修そのものが、職員の負担（感）を増加させてしまうこともある。教育活動全般の見直しやICTの有効活用等、更なる業務のスリム化・効率化への取組を加速させ、改善を図るための時間的なゆとりを確保する必要性があると考える。